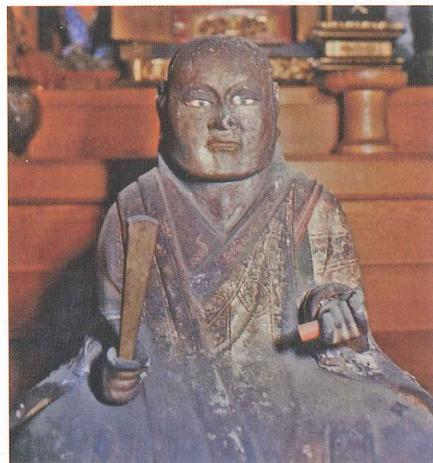


# 木造日蓮上人坐像



登録年月日 昭和六二年三月三〇日  
種別 有形文化財（彫刻）  
所在地 中道寺  
等級 一軀  
件名 点数  
所持物 一二五一一

## 木造日蓮上人坐像

中道寺の本尊である。像高二四cm、膝張二四・五cm、膝奥一八cmの小ぶりな仏像である。

この像は平生は頭巾をかぶせて厨子内に安置されており、俗に「黒眼の祖師」とよばれて親しまれてきたものである。黒い玉眼の瞳、白眼の部分がとくに鮮やかで、「黒眼の祖師」といわれる所にもうなずかれる。

全体に厚手の彩色がほどこされ、破損した所もなく、はぎ合わせた箇所を詳しく知ることはできないが、おそらく寄木造りであろうと推測される。

着衣には金泥（あるいは金箔）の上に黒線で草花文をあしらう、背面上には朱を用いているなど、元はかなり華麗な彩色であったことをうかがわせる。像の小さいわりには、顔貌の表出に細かな神経がはらわれており、日蓮上人の画像か何かをもとに、その面影を表現したものと考えられる。

造像の年代は中道寺が寺客を整えたと伝えられる寛永十三年（一六三六）頃か、それに近い江戸時代前期と思われ、江戸仏像造像史の一資料である。

【文化財所在地】

